

◆その後の動向

10課の拡大鏡、に最近様々な賭博が流行していると書きましたが、特に盛んになっているものの一つが“六合彩”（ロト・シックス）という数字を当てる宝くじ。中国では比較的目新しく、1999年に広東省の潮陽市に登場したのが最初とか。その後、湖南・湖北と北上し、今では北京にも侵入、アングラで大流行しています。

当たれば40倍、時には数百倍・一千倍にもなり、一夜にして大金持ちになれるというこのくじは大いに射幸心を刺激するわけです。しかし、賭博の常で、巨額をつぎ込み素寒貧になる者数知れず。また、これにからむインチキも横行して、悲劇に輪をかけます。公安部によれば、破産したものによる窃盗・強盗や傷害・殺人事件などが増加の一端をたどっているそうです。

こういった状況に何とか歯止めをかけようと、公安部や財政部は共同で特別取り締まりに力を入れ始めましたが、元々がアングラで行われているので、なかなか成果が上がっていません。更に、地方政府の役人が関与し、汚職とも深い係わり合いがある例が少なくありません。

もう一つ指摘されているのが、合法的に行われている宝くじとの区別が明確でないこと。合法的といっても、中国の場合、宝くじに関する専門的法律がまだ整備されておらず、農民など一般大衆には、どこまでが合法でどこまでが違法かの区別がはっきり認識できていない問題があります。こういった点も早急に対策を講じる必要があります。